

岡山県感染症週報 2014 年 第 43 週 (10 月 20 日～ 10 月 26 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』発令中です。

岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』を発令しました（10 月 30 日）

◆2014 年 第 43 週（10/20～10/26）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 42 週 2 類感染症 結核 1 名（80 代 男）

5 類感染症 梅毒 1 名（40 代 男）

第 43 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 6 名

(O26：幼児 男 1 名・女 1 名、20 代 女 1 名、60 代 男 1 名)

(O157：幼児 女 2 名)

4 類感染症 レジオネラ症 1 名（80 代 男）

■定点把握感染症発生状況

○感染性胃腸炎は、県全体で 292 名（定点あたり 4.54 → 5.41 人）の報告があり、前週より増加しました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 53 名（定点あたり 0.61 → 0.98 人）の報告があり、前週より増加しました。

○RS ウイルス感染症は、県全体で 44 名（定点あたり 0.46 → 0.81 人）の報告があり、前週より増加しました。

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第 43 週に 6 名の報告があり、岡山県の 2014 年累計報告数は 67 名となっています。岡山県では、「[腸管出血性大腸菌感染症 警報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症 警報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 292 名（定点あたり 4.54 → 5.41 人）の報告があり、前週（245 名）より増加しました。最近の県内の感染性胃腸炎発生状況から、ノロウイルスによる食中毒の発生が危惧されるため、岡山県では、10 月 30 日に「[食中毒（ノロウイルス）注意報](#)」を発令し、食中毒予防を呼びかけています（昨シーズン 2013 年 11 月 21 日発令）。詳しくは、「今週の注目感染症」をご覧ください。
3. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で 53 名（定点あたり 0.61 → 0.98 人）の報告があり、前週より増加しました。詳しくは、「今週の注目感染症」をご覧ください。
4. [RS ウイルス感染症](#)は、県全体で 44 名（定点あたり 0.46 → 0.81 人）の報告があり、前週より増加しました。10 月に入り、増減を繰り返しながら推移しています。地域別では、美作地域（定点あたり 0.67→2.67 人）、倉敷市（0.18→1.18 人）で大きく増加しています。2014 年第 43 週までの年齢別累計割合では、1 歳未満の乳児が全体の 53%、ついで 1 歳が 32%となっています。

RS ウイルス感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがあります。今後の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めて下さい。お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。

【お知らせ】

11 月も間近となり、インフルエンザの流行が懸念される時期になりました。

次週（第 44 週）から、岡山県感染症週報及び岡山県感染症情報センターホームページに、『インフルエンザ情報』の掲載を開始いたします。

『インフルエンザ情報』では、「地区別発生状況」「ウイルス検出状況」「学校等の臨時休業施設数」「入院サーベイランス」など、県内の発生状況をお知らせします。

また、岡山県感染症情報メールマガジンでは、発生状況の概要を掲載するとともに、インフルエンザ注意報・警報発令時には臨時号を発行し、より早く情報をお届けします。

『インフルエンザ情報』をインフルエンザの予防と感染拡大防止にお役立てください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★★
咽頭結膜熱		★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

【記号の説明】 ・ 前週からの推移： : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減

: 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

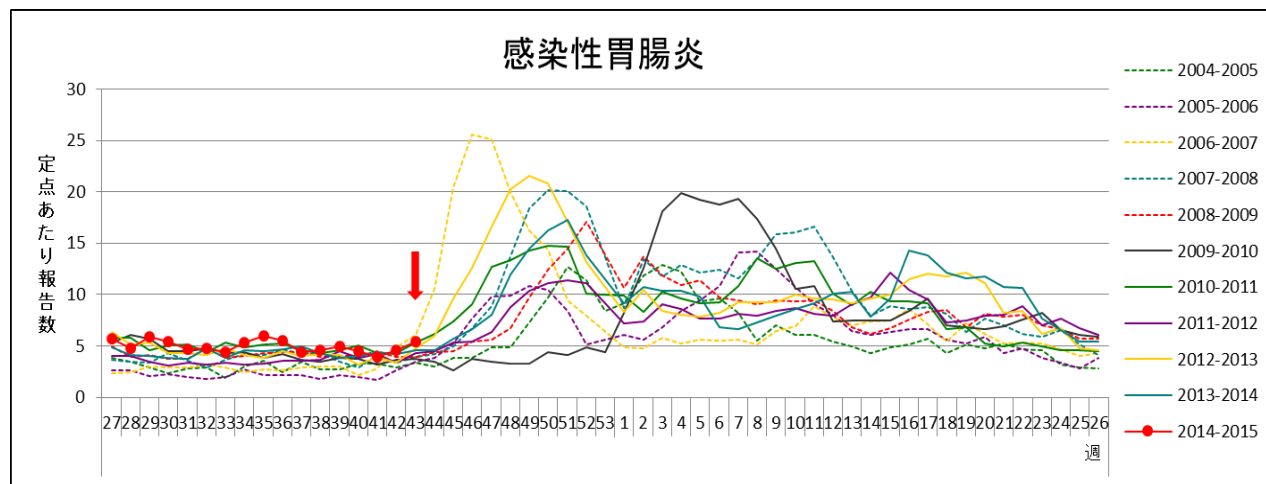
・ 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

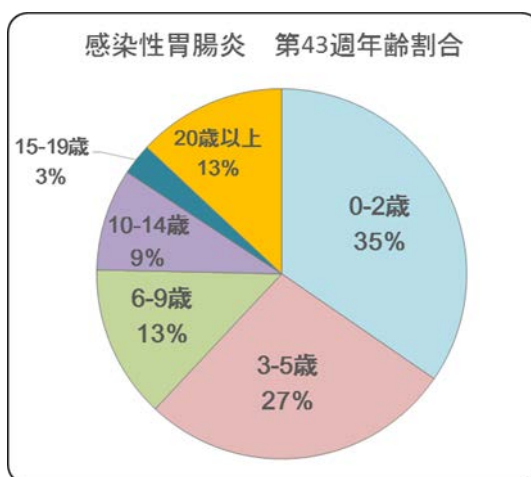
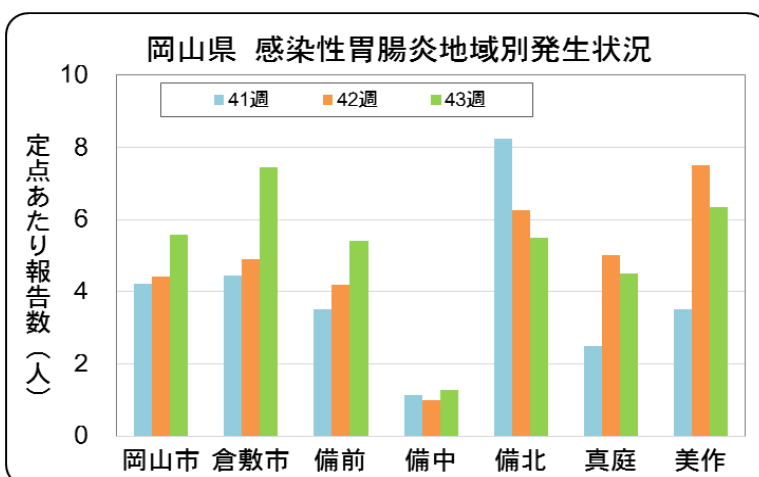
* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

1. 感染性胃腸炎

【岡山県の発生状況】



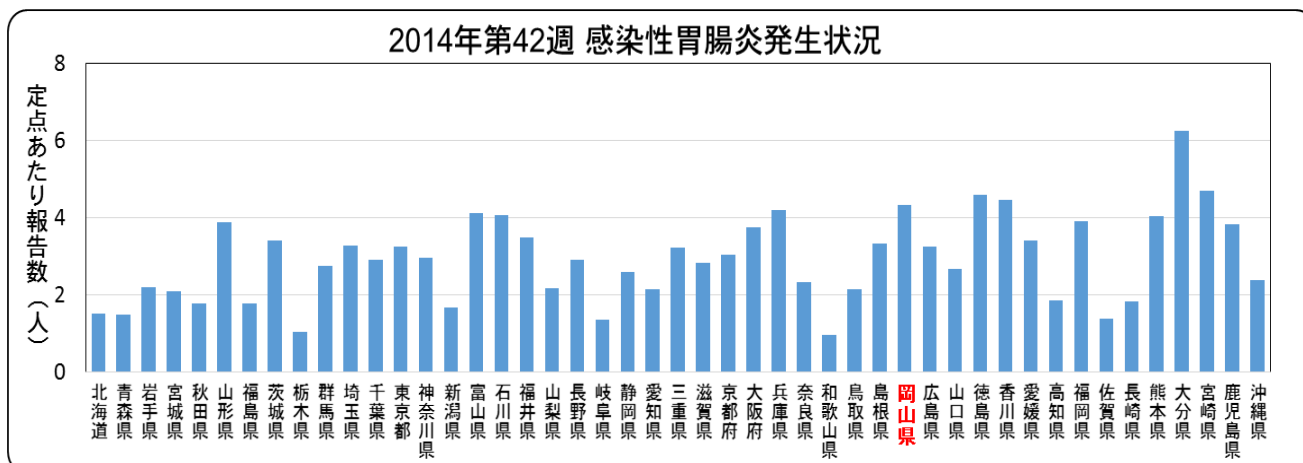
感染性胃腸炎は、県全体で292名（定点あたり4.54→5.41人）の報告があり、前週（245名）より増加しました。最近の県内の感染性胃腸炎発生状況から、ノロウイルスによる食中毒の発生が危惧されるため、岡山県では、10月30日に「[食中毒（ノロウイルス）注意報](#)」を発令し、食中毒予防を呼びかけています（昨シーズン2013年11月21日発令）。



地域別では、倉敷市（7.45人）、美作地域（6.33人）、岡山市（5.57人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、0-2歳が35%と最も多く、5歳以下の幼児が全体の62%を占めています。

冬の感染性胃腸炎の原因はウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは感染が拡大することがありますので、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

【全国の発生状況】



2014 年第 42 週、全国の患者報告数は、定点あたり 2.98 人となっており、第 35 週（8/25～8/31）からほぼ横ばい状態が続いています。都道府県別では、大分県（6.25 人）、宮崎県（4.72 人）、徳島県（4.61 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

【感染性胃腸炎とは】

感染性胃腸炎は、主にウイルスや細菌を原因とする胃腸炎の総称で、冬に流行する代表的な感染症です。1 年を通じて発生が報告されますが、主に患者発生のピークとなる 12 月にはノロウイルスが原因となることが多く、その後、春のピークはロタウイルス、夏期には腸炎ビブリオなどの細菌が原因となると考えられています。

[○感染性胃腸炎とは（国立感染症研究所）](#)

【ウイルス性胃腸炎の感染経路】

ウイルスが人の手などを介して、口に入ったときに感染する可能性があります。

- 1．感染した人の便や吐物に触れた手指を介してウイルスが口に入った場合
- 2．便や嘔吐物が乾燥して、細かな塵とともに舞い上ったウイルスを吸い込んだ場合
- 3．感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合
- 4．汚染されていた二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合

特にノロウイルスは、100 個以下の少ない量でも感染が成立する、非常に感染力が強いウイルスです。

【治療】

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎への特別な治療法はなく、対症療法が中心です。通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

ノロウイルスに感染しないためには

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

嘔吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、嘔吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**塩素系漂白剤**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。ノロウイルスにアルコールは消毒効果が低いとされています。

3. 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1 分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム※の消毒が有効です。

嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗った後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系の漂白剤（使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。）

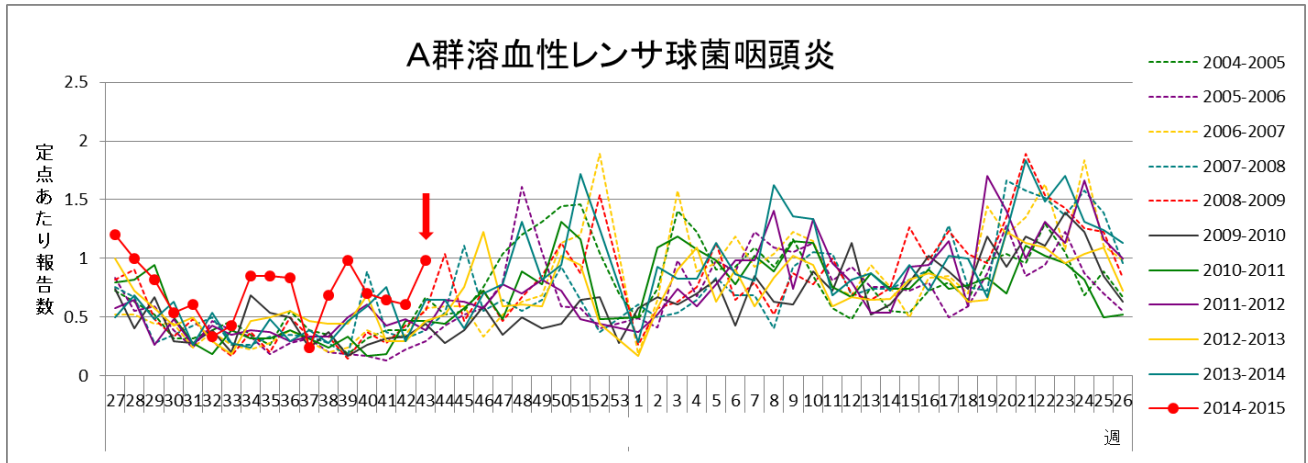
4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。

[○ノロウイルスに関する Q&A について（厚生労働省）](#)

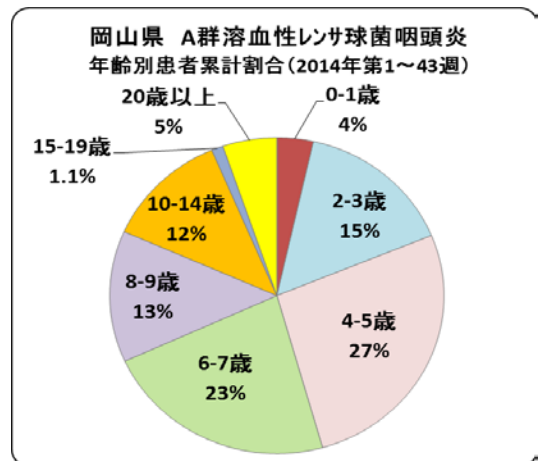
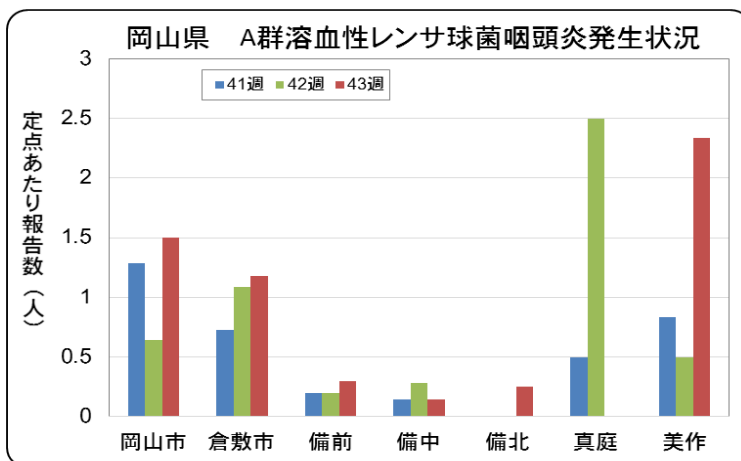
[○ノロウイルス感染症とその対応・予防（家庭等一般の方々へ）（国立感染症研究所）](#)

2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【岡山県の発生状況】

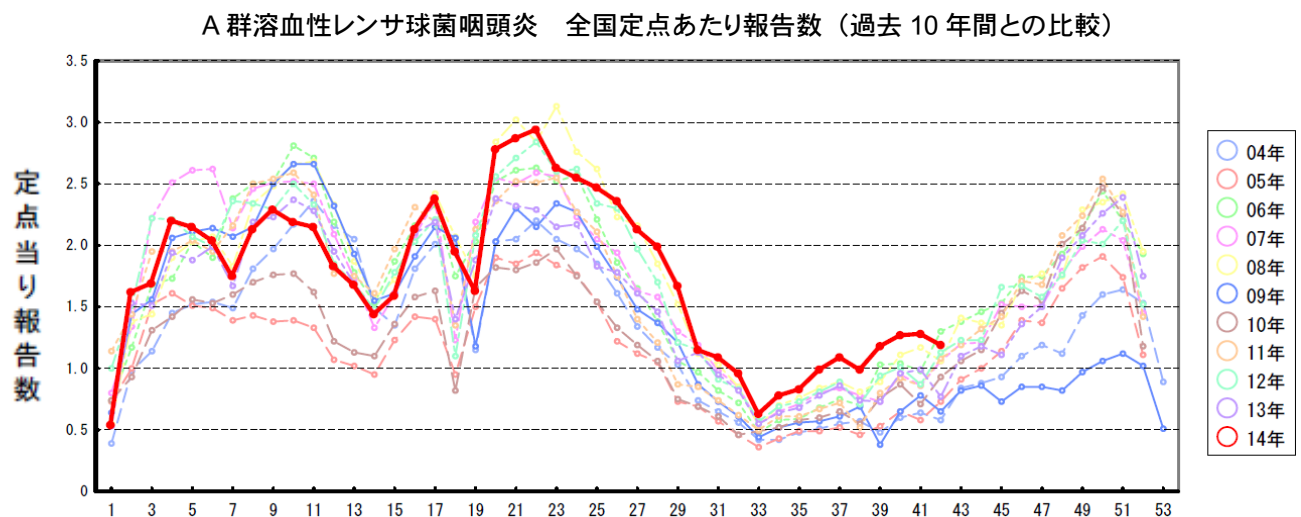


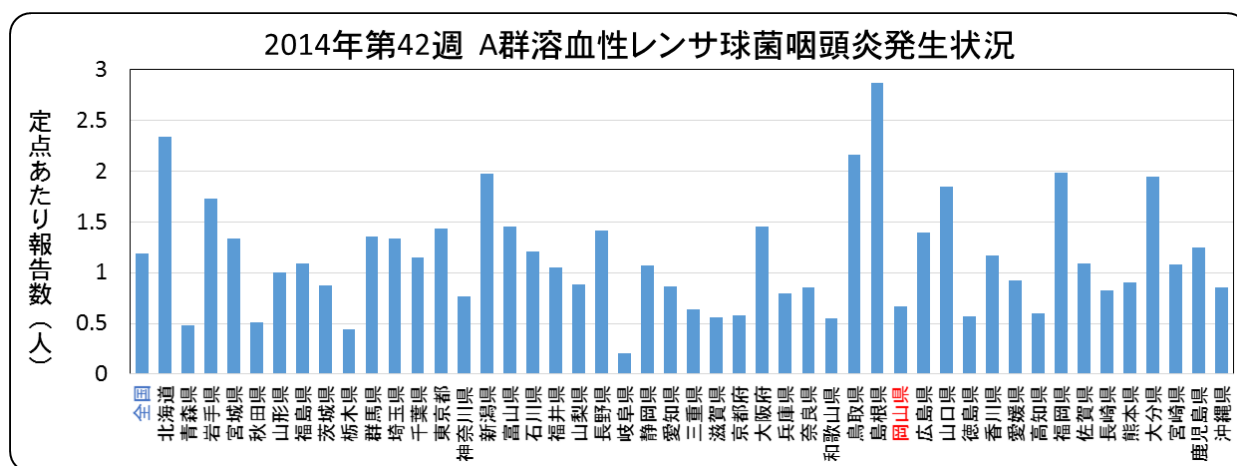
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で53名（定点あたり0.61→0.98人）の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態で推移しています。地域別では、美作地域（定点あたり0.50→2.33人）、岡山市（0.64→1.50人）で大きく増加しており、倉敷市（1.09→1.18人）でも定点あたり報告数が多い状態で推移しています。2014年第43週までの年齢別累計割合は、4～5歳27%、6～7歳23%、2～3歳15%となっており、10歳未満の小児が全体の約80%を占めています。



【全国の発生状況】

2014年、全国の患者報告数は、第39週（9/22～9/28）から3週連続で増加していましたが、第42週（10/13～10/19）は、定点あたり1.19人の報告があり、前週よりわずかに減少しました。しかし、過去10年間の同時期と比べて多い状態で推移しており、都道府県別では、島根県（2.87人）、北海道（2.34人）、鳥取県（2.16人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。





この感染症は、就学前及び学童期で多く発生がみられます。岡山県内の定点あたり報告数は、過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態にあり、近隣の県でも多くなっています。今後の県内の発生状況に注意し、手洗いやうがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

保健所別報告患者数 2014年 43週 (2014/10/20～2014/10/26)

2014年10月29日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	6	0.07	—	—	5	0.31	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	44	0.81	12	0.86	13	1.18	—	—	3	0.43	—	—	—	—	16	2.67
咽頭結膜熱	9	0.17	3	0.21	—	—	1	0.10	1	0.14	—	—	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	0.98	21	1.50	13	1.18	3	0.30	1	0.14	1	0.25	—	—	14	2.33
感染性胃腸炎	292	5.41	78	5.57	82	7.45	54	5.40	9	1.29	22	5.50	9	4.50	38	6.33
水痘	27	0.50	9	0.64	5	0.45	7	0.70	1	0.14	3	0.75	—	—	2	0.33
手足口病	9	0.17	4	0.29	3	0.27	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	20	0.37	10	0.71	5	0.45	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	3	0.50
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	13	0.24	5	0.36	3	0.27	2	0.20	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 43週

(2014/10/20～2014/10/26)

2014年10月29日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	6	0.07	—	—	5	0.31	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	0.17	3	0.21	—	—	1	0.10	1	0.14	—	—	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	0.98	21	1.50	13	1.18	3	0.30	1	0.14	1	0.25	—	—	14	2.33
感染性胃腸炎	292	5.41	78	5.57	82	7.45	54	5.40	9	1.29	22	5.50	9	4.50	38	6.33
水痘	27	0.50	9	0.64	5	0.45	7	0.70	1	0.14	3	0.75	—	—	2	0.33
手足口病	9	0.17	4	0.29	3	0.27	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	13	0.24	5	0.36	3	0.27	2	0.20	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第43週 2014/10/20～2014/10/26)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	6	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-

疾病名	合計		-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	44	10	9	13	8	2	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	9	－	－	2	4	1	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	－	1	2	3	1	10	10	－	9	6	2	5	－	－	4
感染性胃腸炎	292	4	31	36	30	35	28	17	11	11	9	8	26	8	38	38
水痘	27	1	1	6	2	2	3	3	3	－	1	－	5	－	－	－
手足口病	9	－	－	4	1	2	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－
伝染性紅斑	2	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
突発性発疹	20	1	7	11	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	2	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	13	－	－	－	－	－	1	3	2	3	1	2	1	－	－	－

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-

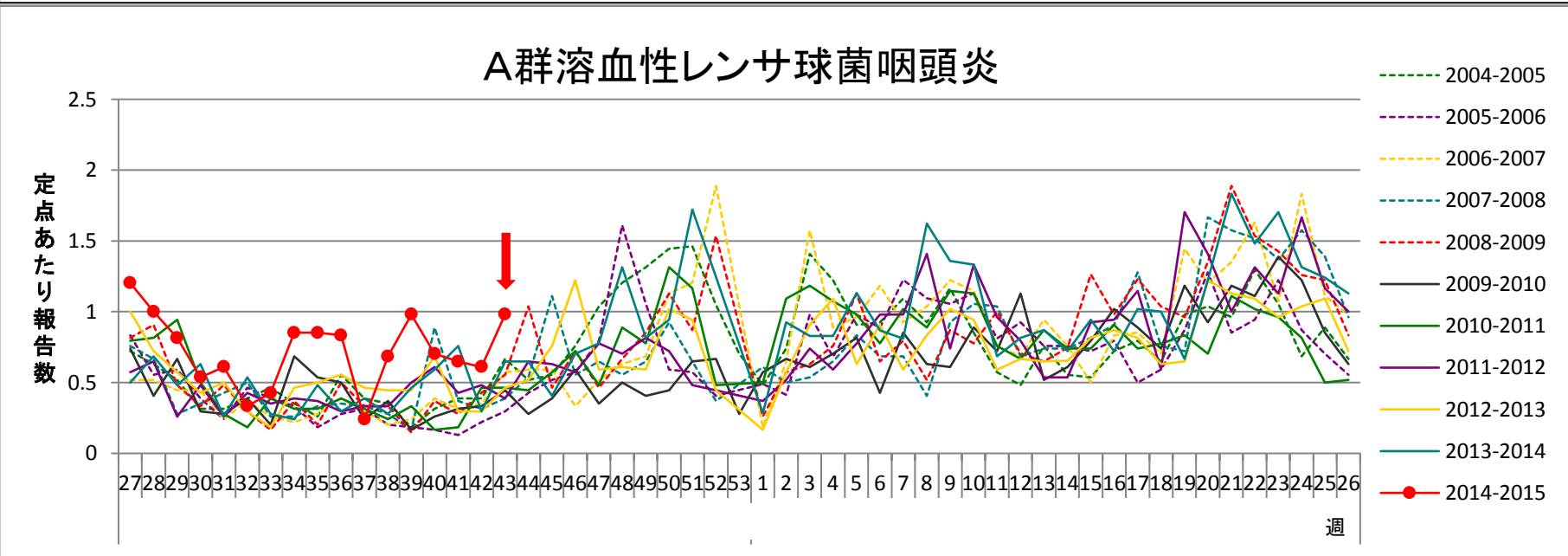
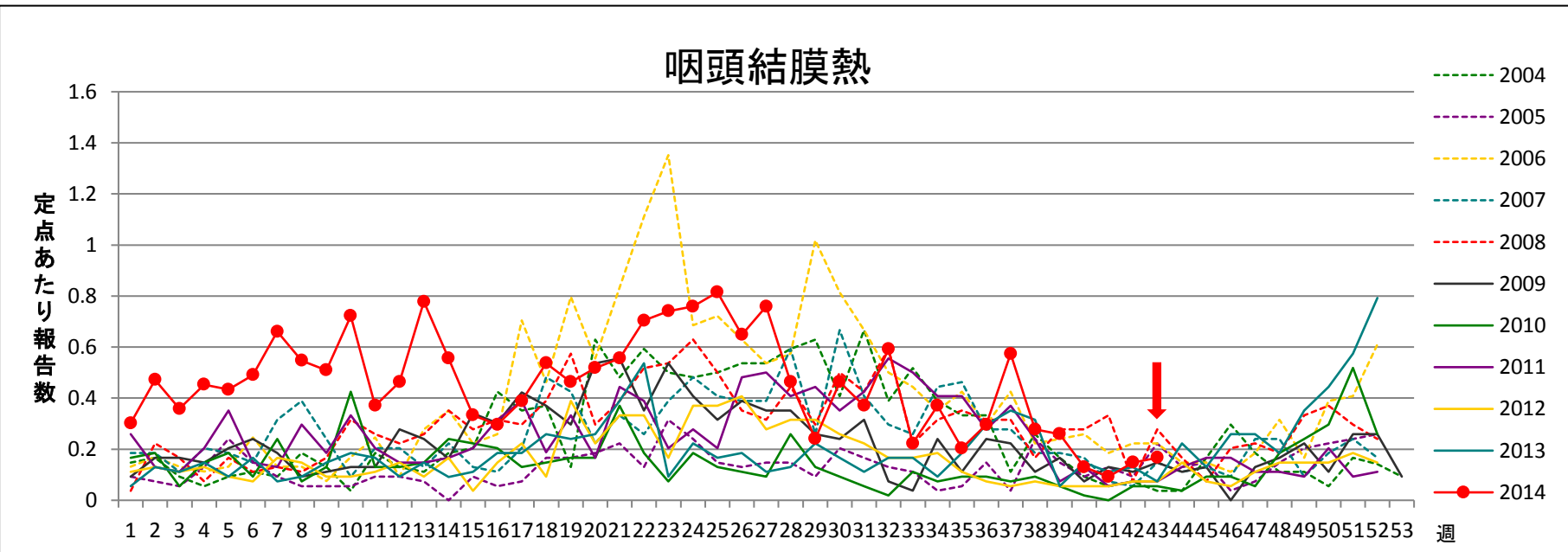
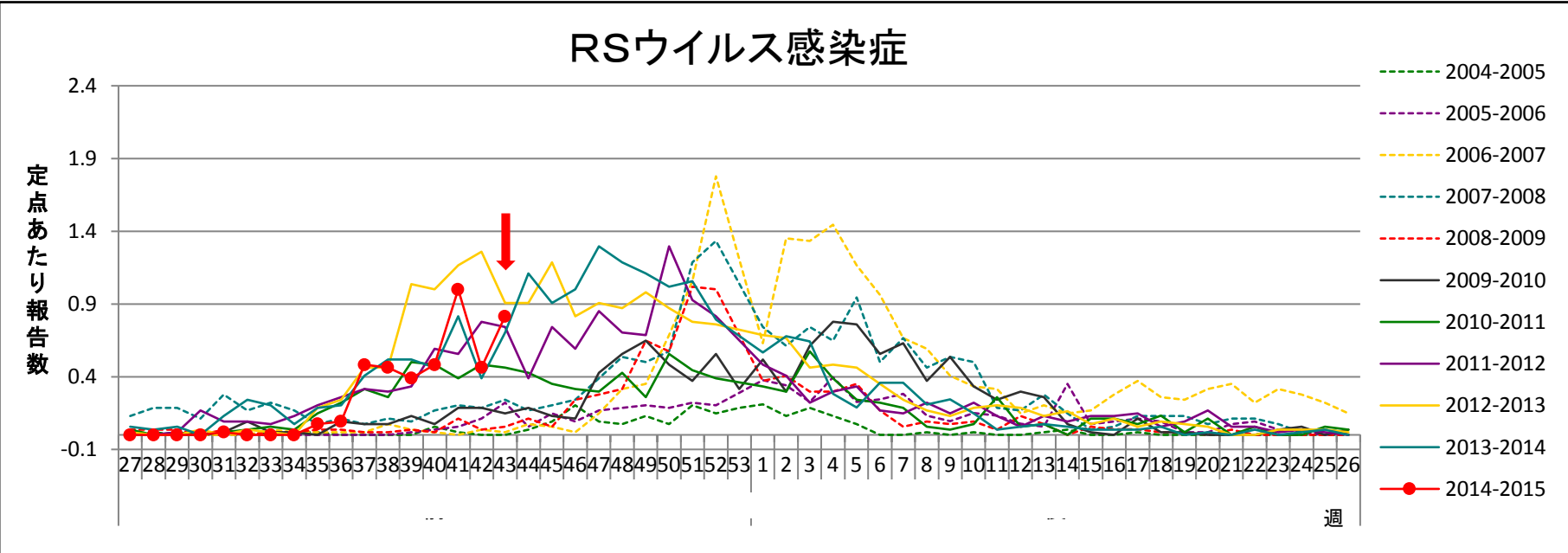
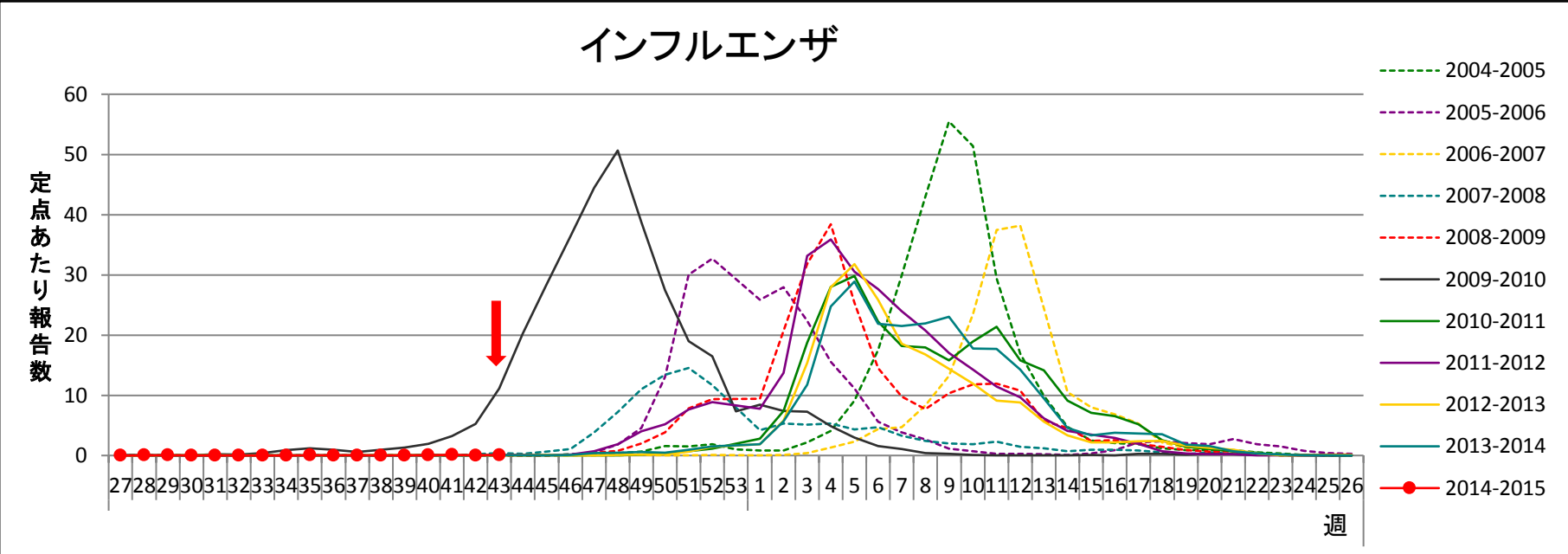
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

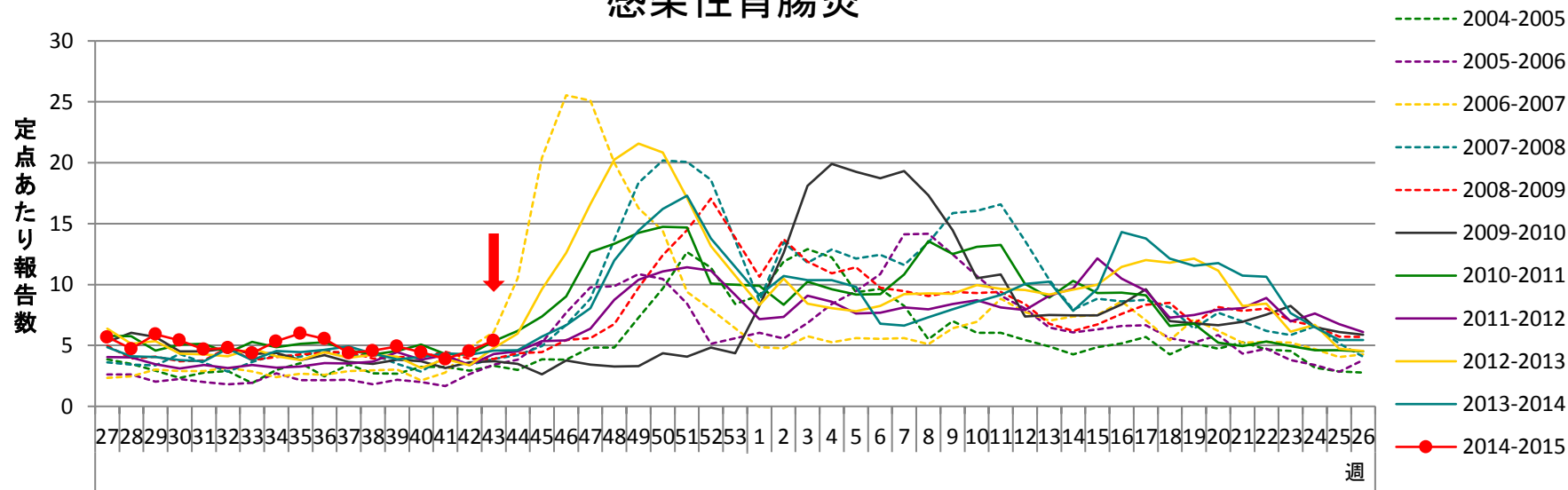
全数把握 感染症患者発生状況

2014 年 43 週

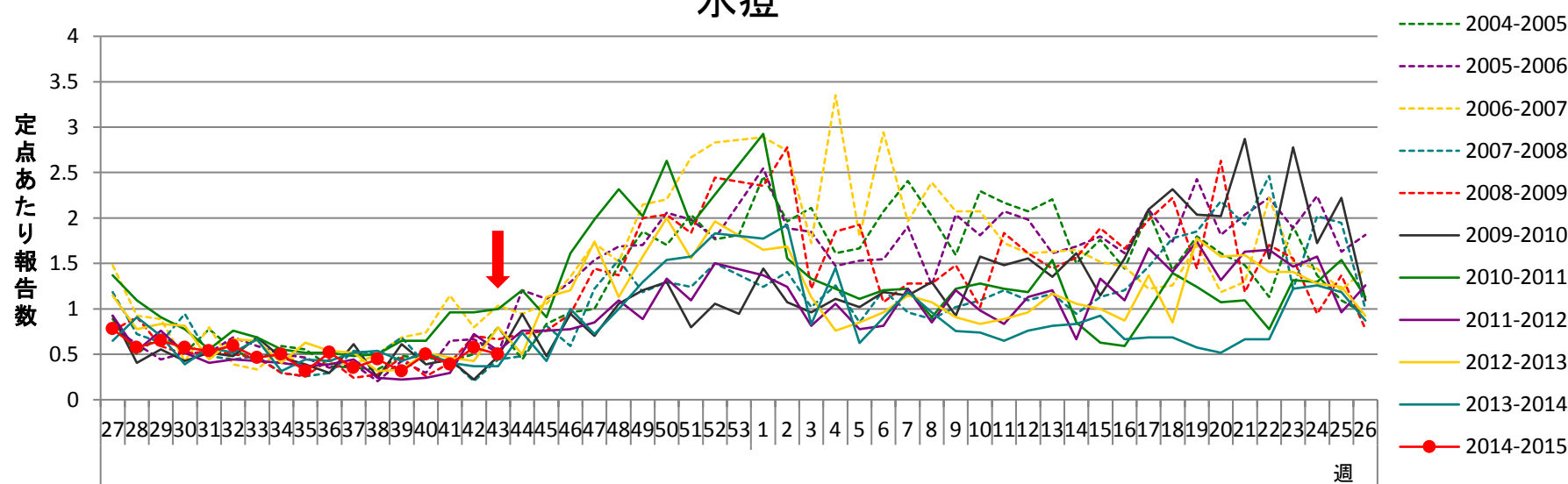
分類	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	－	299	358	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	6	67	87
	腸チフス	－	－	1	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	1	－	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	6	5
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	2	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	2	－	デング熱	－	1	－
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	1	日本紅斑熱	－	4	2	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	1	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	1	25	24	レプトスピラ症	－	－	2
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	五類	アメーバ赤痢	－	8	20	ウイルス性肝炎*3	－	7	13	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	3
急性脳炎*4		－	9	5	クリプトスポリジウム症	－	－	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	4
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		－	3	3	後天性免疫不全症候群	－	19	18	ジアルジア症	－	－	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		－	－	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	20	20
水痘(入院例に限る。)		－	1	－	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	14	8
播種性クリプトкокクス症		－	－	－	破傷風	－	1	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		－	1	1	風しん	－	2	76	麻しん	－	6	3
薬剤耐性アシネトバクター感染症		－	－	－		－	－	－		－	－	－



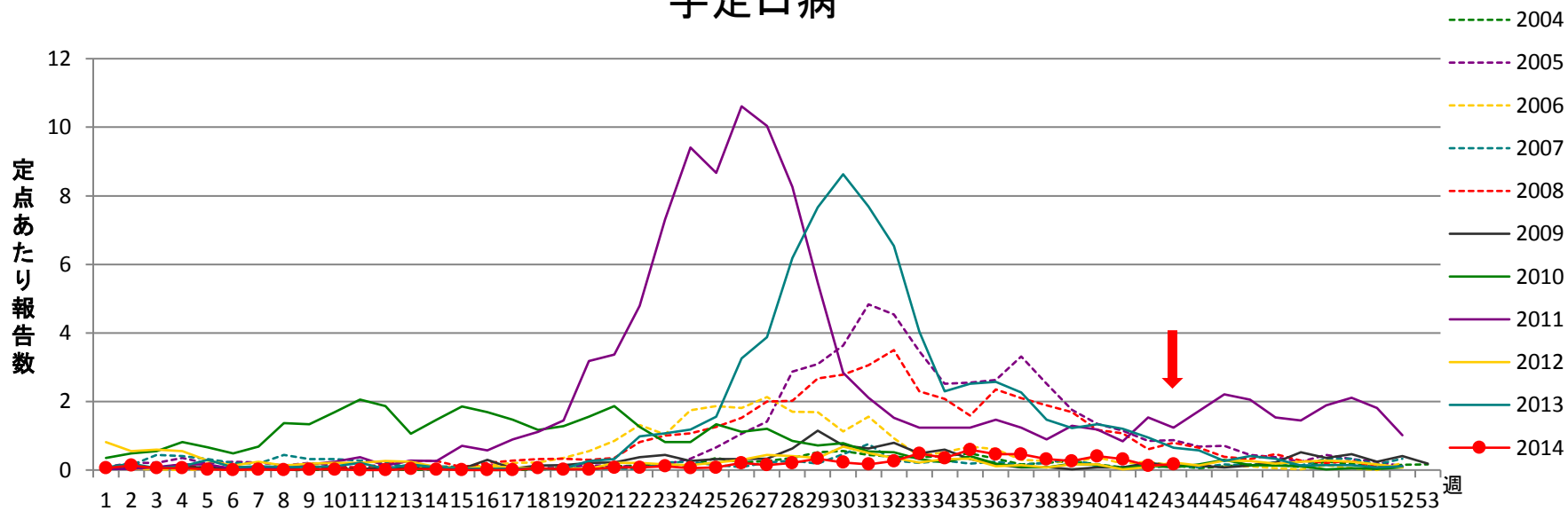
感染性胃腸炎



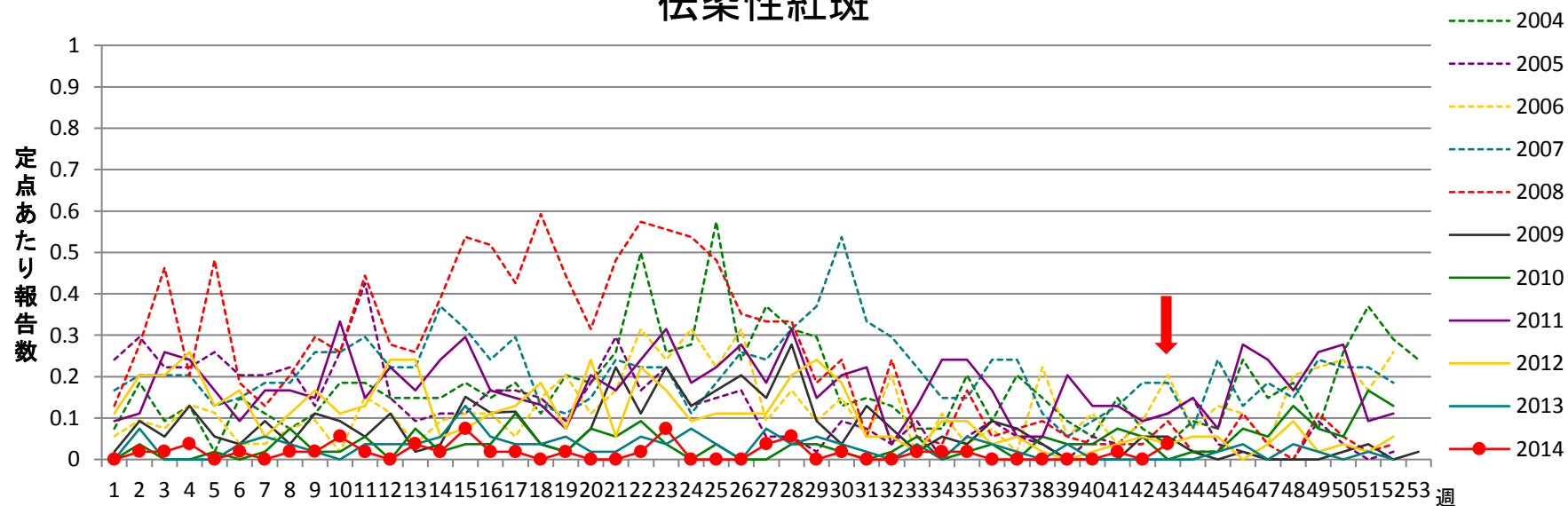
水痘



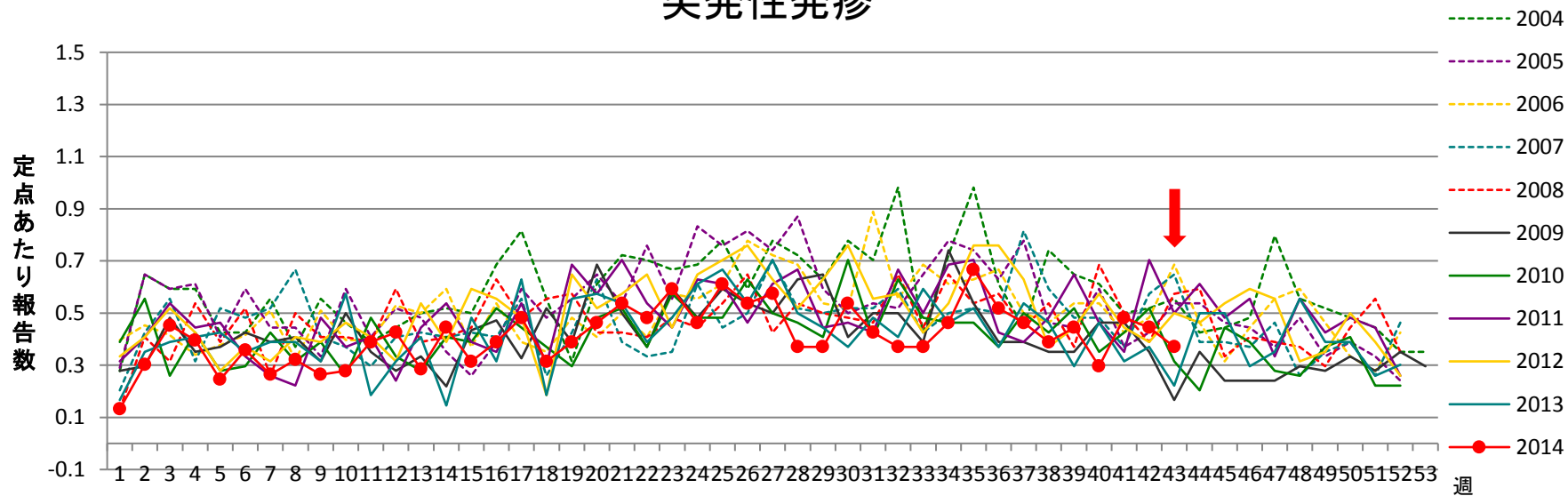
手足口病



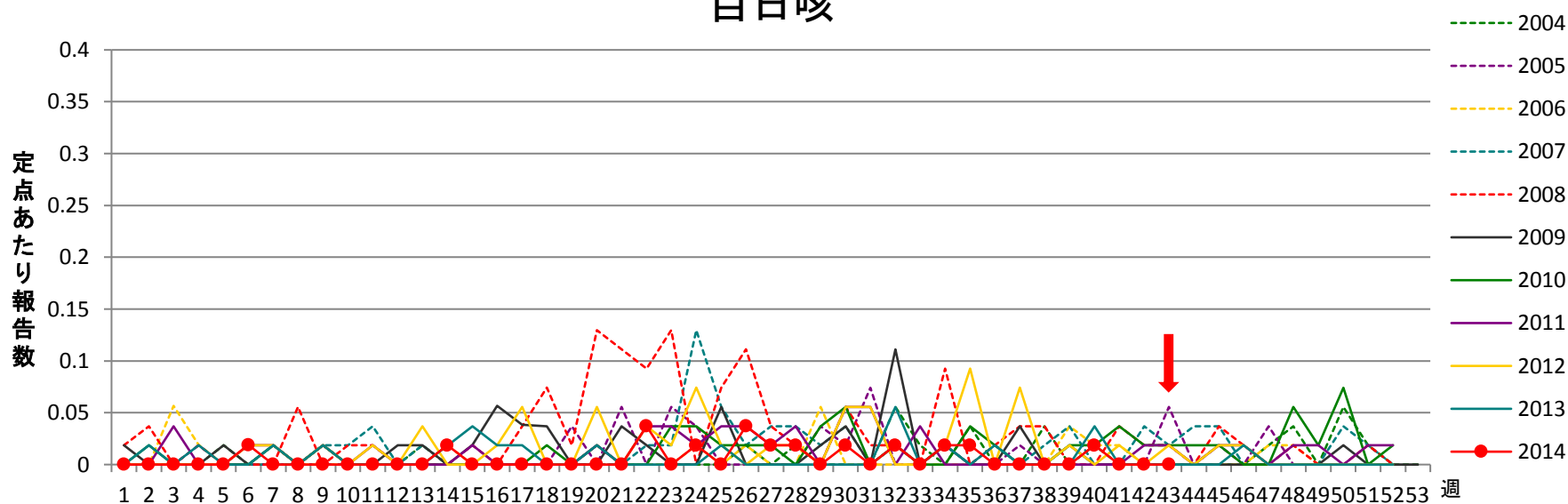
伝染性紅斑



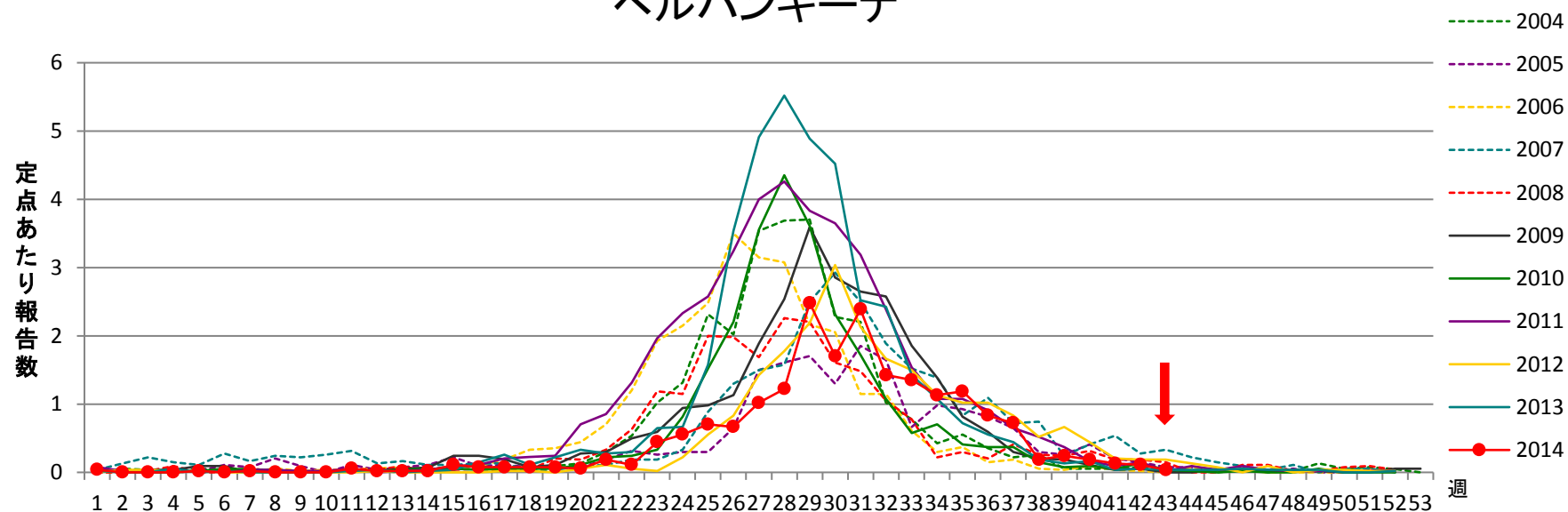
突発性発疹



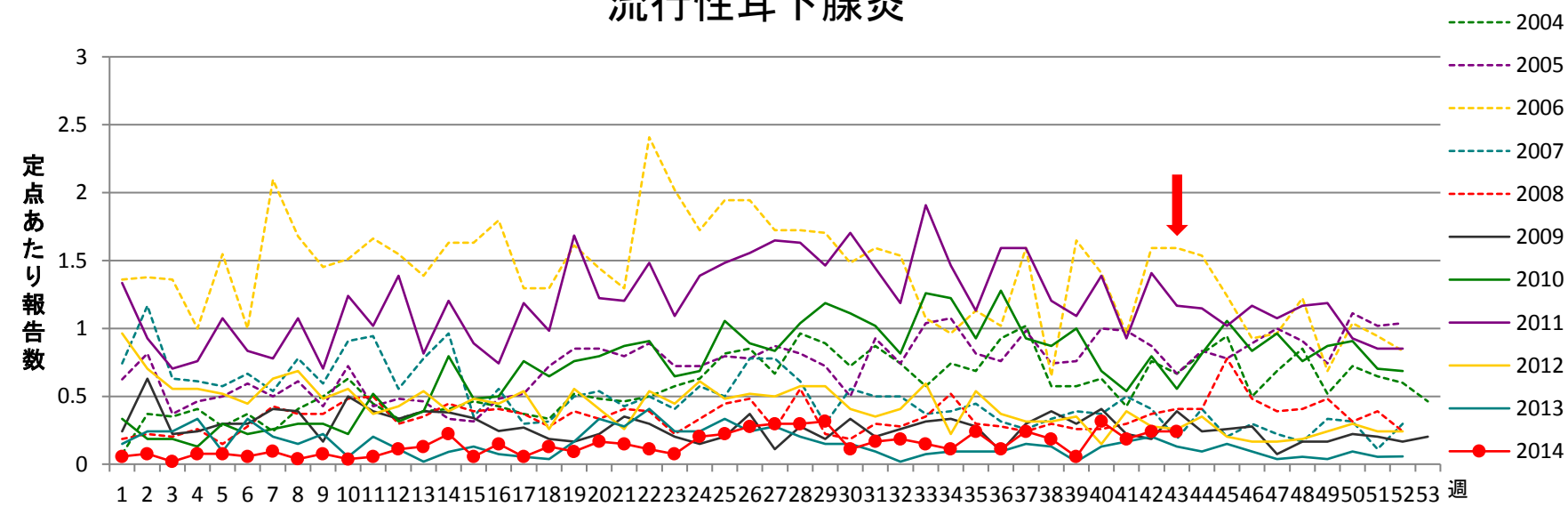
百日咳



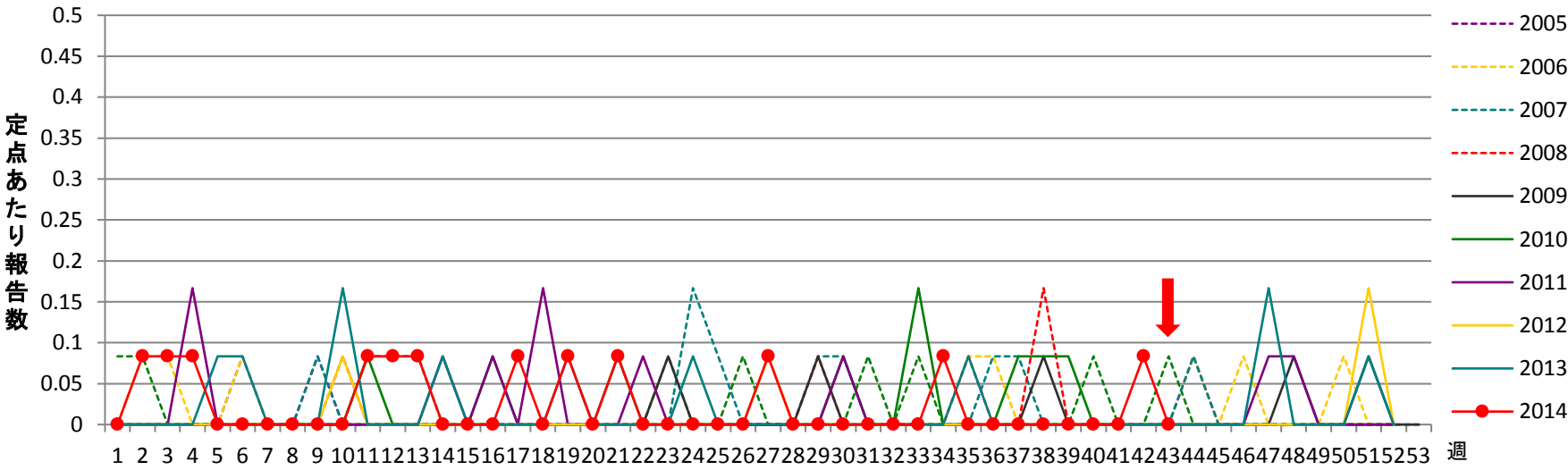
ヘルパンギーナ



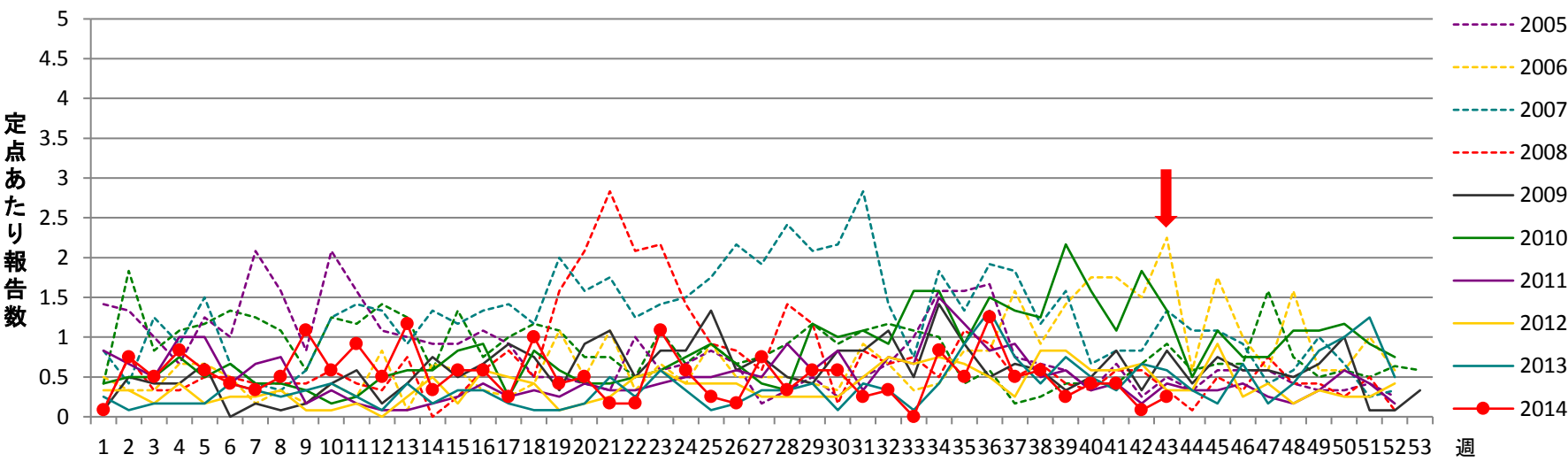
流行性耳下腺炎



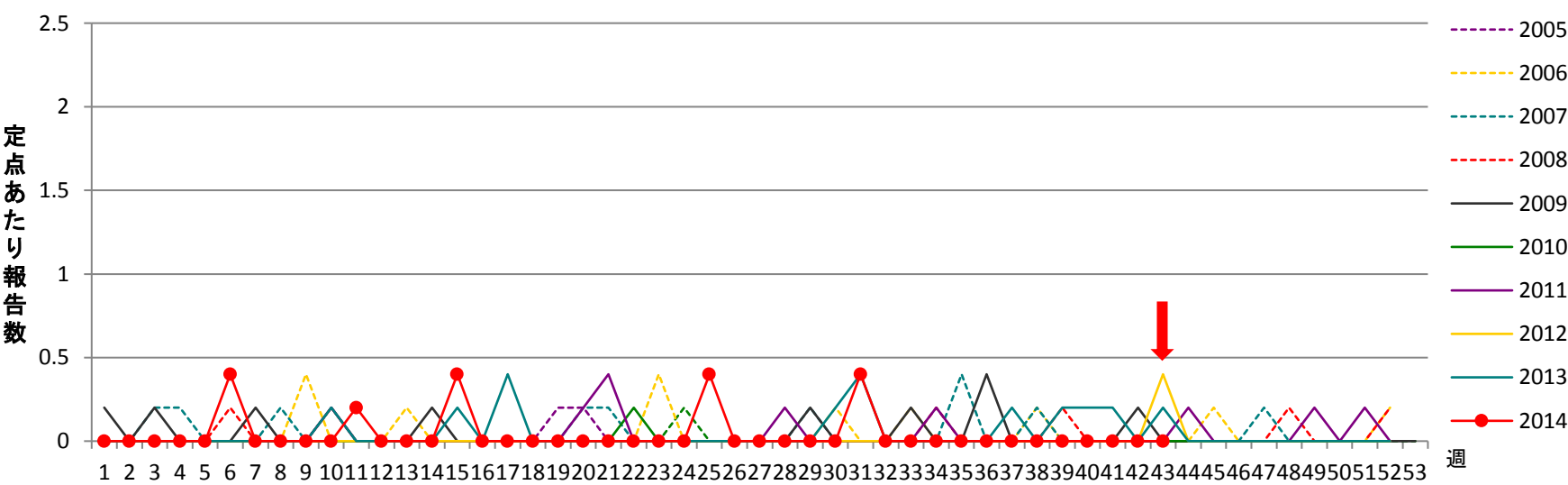
急性出血性結膜炎



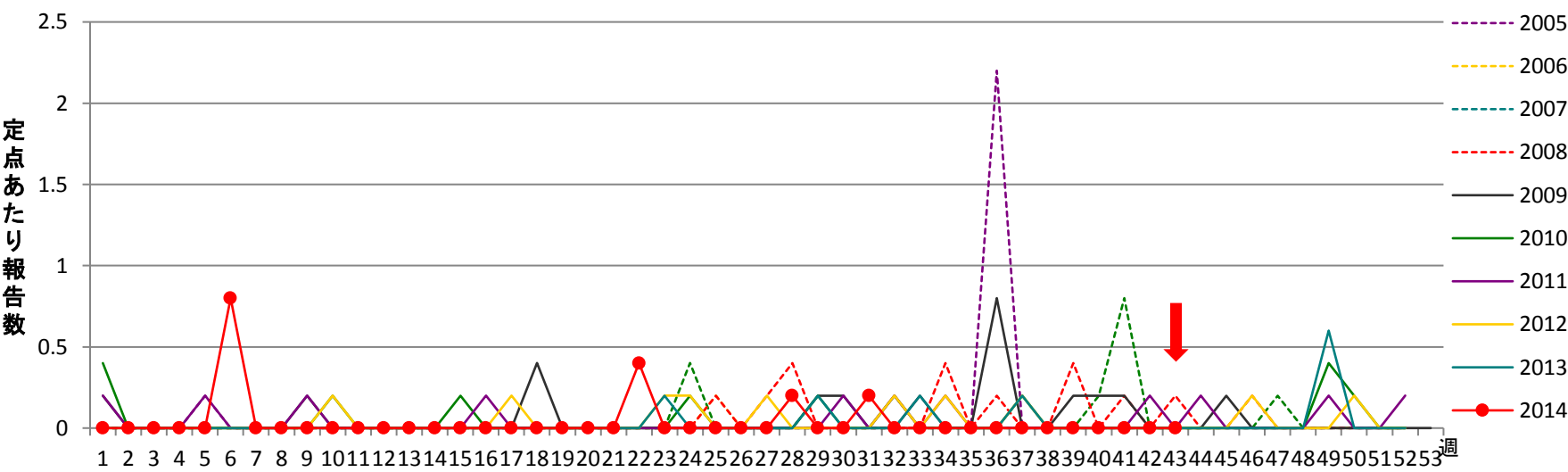
流行性角結膜炎



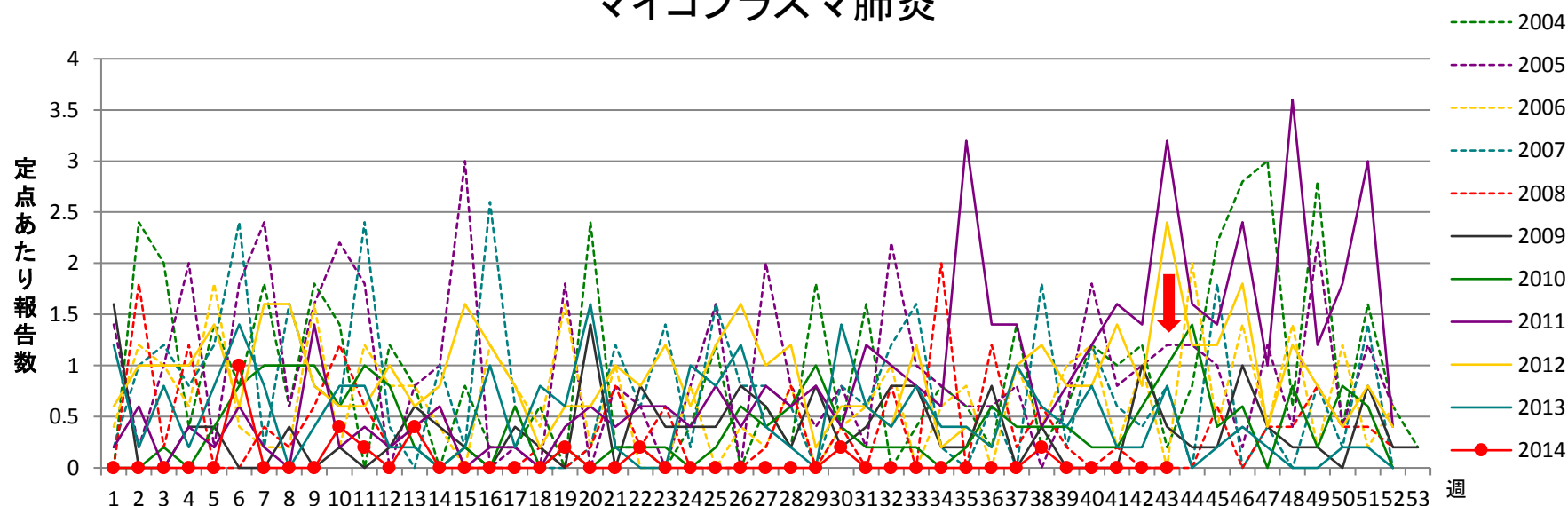
細菌性髄膜炎



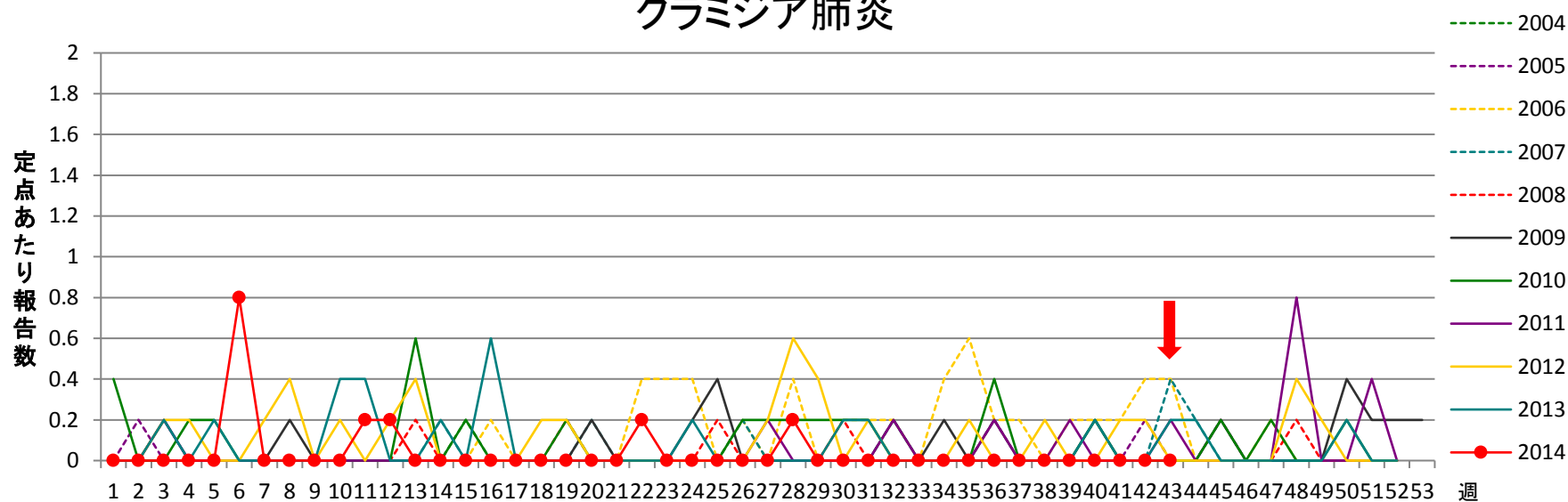
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

